

平成27年度学校自己評価システムシート（さいたま市立大宮西高等学校）

目指す学校像	確かな学力と豊かな人間性を育て、グローバル化社会に適応できる生徒を育成する。
--------	----------------------------------------

重点目標	1 主体的に学習に取り組む態度や学習意欲を向上させ、学習内容の定着を図る 2 基本的な生活習慣を確立させ、自主自律の精神を育て、生徒会活動や部活動を通して、協調性や社会性を高める 3 あらゆる機会に進路意識の高揚を図り、多様に変化する社会に適応できる生徒を育成する 4 地域に根ざした学校づくりを推進するとともにグローバル化先進校として開かれた学校づくりを推進する
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					
年度目標			年度評価（2月1日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況
1	○生徒の進路実現に向け自主的な学習活動が確立されるようになってきたが、学力の向上にはより一層の工夫が必要である。そのためにも、学習環境の整備や授業展開の改善、授業時間の確保に努める。また、学力の向上に向け、家庭学習の定着を図り、予習と復習の習慣を身に付けさせる必要がある。	主体的な学習習慣の形成  学習意欲の向上と学習内容の定着	1 家庭学習の習慣化のため国語・数学・英語を中心とした週末課題の提出と確認テストを実施する。 2 学習到達度テストを通して、生徒の学力レベルに応じた学習計画を立てさせる。 3 グローバル化社会に対応するため、英語能力判定テストの実施及び各種検定試験を推奨し、資格取得に対して学校全体でサポートする。	1 週末課題の確認テストの平均得点が6割以上であるか 2 学習到達度テストが効果的に利用されているか 3 各種検定試験の資格保有者数が増加したか	主体的な学習習慣の形成のために、各学年が週末課題や確認テストを計画的に実施し、家庭学習を習慣化させた。また、確認テストで基準点数以下の生徒に対しては補習を行い、基礎学力の定着を図った。さらには、各種検定の受験を促し、漢字検定は15名合格、英語検定は36名合格した。
2	○明るく元気な生徒が多く、学校への満足度も非常に高い。しかし、髪型や服装の乱れ、朝の遅刻などが目立つため、生徒自身が行えるような指導と、生徒自ら考え行動できるようにする指導が必要である。 ○日常の学校生活や行事、部活動等を通して他者を思いやる気持ちや他者を尊重する態度を継続して身に付けさせる。校外では公共のマナーやルールを順守できる生徒を育成する。	基本的な生活習慣の確立  協調性や社会性のある生徒の育成	1 時間や規則を守らせ、必要に応じて家庭・関係機関と連携する。 2 メール連絡網を通して欠席・遅刻等の情報を把握し、無断欠席や遅刻を減らす。 3 学校全体で一貫した服装髪型指導、遅刻指導を実施し、生徒がけじめのある生活を過ごせるよう指導する。 4 登下校のマナーアップのため、大宮駅前のバス停指導や三橋（3）交差点立哨指導を行う。	1 遅刻回数が増えたか 2 欠席や遅刻の連絡が確実に担任へ伝わっているか 3 服装髪型指導・遅刻指導対象者数が減少したか 4 交通事故件数が減少したか	基本的な生活習慣の確立に向け、メール連絡網を活用しながら保護者との連絡を密にすることができたが、遅刻の多い特定の生徒に対して指導が徹底できなかった。また、髪型指導については、学年を中心に指導を行ったことで改善したが、服装指導については継続して学校全体で指導していく必要がある。自転車通学者の乗り方のルールやマナーは立哨指導を行うことなどで、交通事故件数は確実に減少し、傘さし運転等も大幅に減少したが、一層マナーを徹底していく必要がある。
3	○国公立大学や難関大学への進学者が増加傾向にあり、多くの生徒が上級学校への進学を目指して、計画的に取り組んでいる。しかし、中には具体的な取組が遅れ、実力を発揮できない生徒もいる。そのため、早い段階からきめ細かい進路指導を繰り返し行い、進路意識の高揚を図る必要がある。	生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の取組	1 受験サプリアを1・2学年全員と3学年希望者に導入し、生徒一人ひとりの進路希望に合わせた対策講座を受講させる。 2 平日や長期休業中の補習に加え土曜進学セミナーを開講し、受験に特化した授業を受ける機会を設ける。 3 学習到達度テストや校外模試等を利用し、結果を分析することで、生徒の進路実現に向けた個別指導を充実させる。 4 センター試験対策講座を実施し、センター試験の受験を促進する。	1 受験サプリアを利用することによって家庭学習時間が増加したか 2 補習及び土曜進学セミナーの参加者数が増加したか 3 学習到達度テストや校外模試の結果分析の利用頻度が増加したか 4 センター試験受験者数が増加したか	生徒は積極的に学校行事に参加しており、学校行事に対する満足度も高い。男子生徒の減少や部活動の加入率は例年並みだが、全国大会や関東大会に出場する部活動もあった。定期的にHR担任による個別面談を通じて生徒の状況を把握しながらクラス経営を行っている。年間5回外部講師を招き、生徒に身近なテーマの講話を実施することで、自分の生活についてじっくりと考えさせる機会を設定することができた。
4	○地域に根ざした学校にするため、HP等を充実させ情報を発信すると共に、学校行事等で地域住民と交流し、情報交換などをする必要がある。また、グローバル化先進校として、国際交流の機会を適切に設定してきたが、実際に海外の文化等を体験できる生徒の人数は少ない。	地域に根ざした学校づくりと国際社会へ開かれた学校づくりを推進	1 学校行事（文化祭等）に地域住民の方を招き、本校生徒の活動を見る機会を設ける。 2 中学生との交流や随時HPを更新することで、中学校向けの情報を充実させ、本校の魅力を地域に伝える。 3 生徒の海外研修に参加できる機会を増やし、海外の文化に触れることが出来る生徒を増やす。 4 多くの海外生徒との交流の機会を積極的に設け、生徒間交流等により本校の魅力を伝える。	1 文化祭等における地域住民の参加者数が増加したか 2 中学校PTA訪問と上級学校見学の受入数が増加したか 3 海外研修の参加人数が40人を上回ったか 4 本校生徒の海外訪問国数3ヶ国以上、受け入れ国数2カ国以上	地域に根ざした学校づくりを推進するために、HPを毎日更新した。文化祭では約2,300人が来校し、3回の学校説明会では約2,000人の中学生とその保護者が来校した。また、三橋地区防災訓練に140名、さいたま国際マラソンのボランティアに50名が参加した。海外研修は夏季休業中、オーストラリアに25名、ニュージーランドに20名、韓国に6名派遣し、1年間アメリカへ留学する生徒や韓国からの研修生徒の受け入れ等、本校生徒が海外生徒と交流する機会を設ける事ができた。

学校関係者評価
実施日 平成28年2月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等
○学力の向上が見られたことに安心した。
○多くのメディアに取り上げられ、自然と良い方向に動いている。
○検定受験者数が増加したことに加え、上位級の合格者が出たことはすばらしい。
○傘さし運転防止のためのカップ着用指導は良い成果が見られた。
○スカートの基準を変更し、裾にNのマークの刺繍を入れたことは、とても良い取り組みである。
○学校満足度は、インターネットの情報からも知ることができた。いじめがなく、卒業生の評価も高いことは、生徒と教師の良い信頼関係のあらわれである。
○学校行事や部活動の活躍ぶりを、スライド視聴と生徒会役員・部活動部員との懇談で確認することができた。
○生徒の取組状況を確認することができた。
○推薦入試に加え、一般入試にも多くの生徒が取り組んだことはよかった。
○進路実現に向けた3年間の取組の成果が現れた。
○地域との連携がしっかりととれた。西高は非常によくなった。
○大宮の時代から友好姉妹都市としてアメリカピッツバーグと交流があるため、ぜひ西高も海外交流事業として実施してほしい。